

地球環境から ものづくりまで 総合力で日本を牽引する

愛知県知事

神田真秋さん

かんだ まさあき ● 1951年 愛知県生まれ
 1974年 中央大学法学部卒業
 1976年 名古屋弁護士会（現在、愛知県弁護士会）に弁護士登録
 1989年 一宮市長に当選
 1999年 愛知県知事に初当選
 2003年 愛知県知事に再選
 2007年 愛知県知事に3選



知事は3期目になります。県政をどのような姿勢で進めようとしていますか？

神田―愛知県は、31年連続で製造品出荷額が全国一である工業を始め、商業、農林水産業がバランスよく発展していることが特徴です。あまり知られていませんが、花や野菜などを中心に、農業面でも全国6位です。バランスの良さを崩すことなく、あらゆる分野を発展させ、「愛知の総合力のアップ」につなげていきたいと考えています。

知事が示されたマニフェストは「ロードマップ2008」という工程表で進行管理をしていますが、その進捗状況はどうですか？

神田―「ロードマップ2008」は、私がマニフェストで約束した2008の施策・取組を、県として、平成19年度から22年度までの4年間、着実に実施していくための工程表です。昨年10月には、1年目の取組状況を公表しました。ほとんどの施策に着手済みであり、既に、目標を達成した項目も

1割強あります。着実に進んでいると考えておりますが、中でも県民の安心・安全に関する取組への迅速な対応や2010年に向けた「COP10」(生物多様性条約第10回締約国会議)などの主要プロジェクトの推進に力を注ぎました。

「COP10」の開催地として、どのような具体的な成果に結びつけていく予定でしょうか。また、知事の生物多様性についての考えをお聞かせください。

神田―生物多様性は、生きものたちの繋がりの中で、非常に長い年月をかけてつくりあげられてきたものであり、私たち人間の命と暮らしを支えています。私たちは、生物多様性を損なうことなく、持続可能な形で将来にわたって上手に活用し



「あいちトリエンナーレ2010」の拠点となる愛知芸術文化センター



「COP9」の会場風景



県民による樹林や里山再生の様子

ていかなければなりません。そうした中、「COP10」は、生物多様性に関する新たな目標を設定するなど、地球温暖化防止に係る京都会議に匹敵する国際会議になるものと考えています。

開催地元として会議の円滑な運営に寄与することはもちろんですが、自治体、企業、NPOなど、様々な主体が先進的な取組を世界に情報発信する大きなチャンスになると思っています。さらに、生物多様性を機軸とした今後の地域づくりに活かしていきたいですね。このため、本年度は「あいち自然環境保全戦略」を策定し、植樹活動や里地里山の再生など、県民一人ひとりの参加協働による身近な取組とともに、企業やNPO等による持続可能な利用を進める取組についても取り上げていきたいと思っております。

同じく2010年に開催される「あいちトリエンナーレ2010」はどのようなもの

愛知県は農業でも全国6位。バランスに優れている



ですか？ともすれば難解な芸術を県民にどのように発信し定着を図るのでしょうか。また、知事が印象に残った展覧会等がありましたら、その理由も含めお聞かせください。

神田―あいちトリエンナーレ2010は、現代美術を中心としつつ、オペラやダンス、音楽などの舞台芸術をも積極的に取り込む複合的な芸術祭を目指しています。最先端の芸術に直接触れていただくとともに、展示の仕方を工夫するなどして、わかりやすく伝えたいと考えております。さらに、親しみやすくするために、拠点となる愛知芸術文化センターでの展示や公演と、隣接する都市空間でのイベント等を手組み合わせて、都市としての祝祭感を創出していきます。

愛知県はものづくりが活発な地域です。その意味では世界の中枢ですが、経済面と並ぶ文化芸術面においても、これを機に世界に向けた創造・発信力を高めて



UDに真正面から取り組んだ中部国際空港



愛知万博の「グローバルループ」



小学校での体験学習の様子



「人にやさしいまちづくり条例」で整備された施設

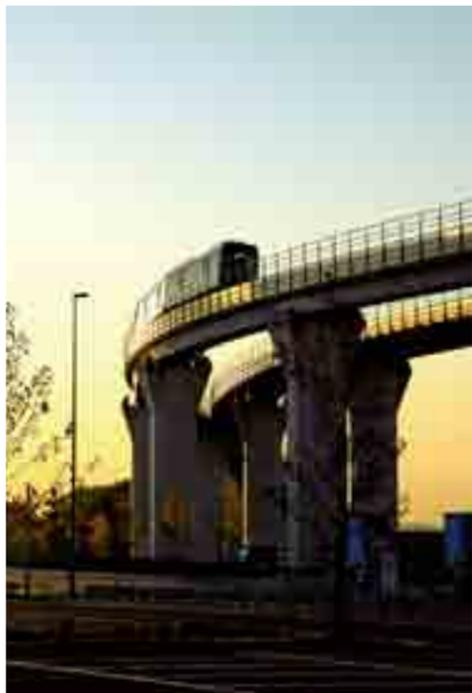


ユニバーさる

設整備基準の拡充や、日常生活において重要な小規模な店舗等を対象施設に追加するなどの改正をし、2008年には、すべての人々がより快適に利用できる良質な整備のあり方について、「人にやさしい街づくりの望ましい整備指針」を定めています。さらに、「人にやさしい」とはどのようなことかを、特に将来を担う子どもたちが「知る」ために、教育読本を作成しました。小学校では、車いすなどを利用した体験学習を行っております。

地域活動では、NPOやボランティアとの協働が欠かせません。かつては、行政の役割と民間の役割が峻別されてきました。現在は、福祉や災害対策など両方に属する中間領域が増えています。行政だけではどうにもならず、住民パワーと一緒に進めるかお互いに助け合う時代になった

「私、機会のあることに県内外の美術館を訪問しています。昨年5月には、大阪の国立国際美術館で「液晶絵画展」という映像技術の展示会を観察しました。映画とも従来の絵画とも違う、何か新しいものを見ている感じで、とても印象に残りました。また、10月には横浜トリエンナーレと上海ビエンナーレを観察してきました。スケールの大きなオブジェが数多く展示されており、興味深く拝見するとともに、あいちトリエンナーレを開催する上で、大変参考になりました。



愛知高速交通東部丘陵線(リニモ)

「経営者の方と接する機会も多いと思いますが、感想をお聞かせください。」

「神田―本県の製造業が更なる発展をしていくためには、「モノづくり」の力だけではなく、企業の認知度や対外的イメージの向上を図る「ブランド」が必要不可欠です。こうしたことから、本県では、2003年から、ものづくり愛知を支えるキラリと光る企業を「愛知ブランド」として認定しています。」

認定基準は①理念・経営トップのリーダーシップ②人の活性化と業務プロセスの効率化・革新③コア・コンピタンス(独自の強み)④顧客との関連性の質・深度を高める顧客価値構築⑤社会・環境への配慮の5項目です。現在、認定企業は227社を数えております。

「知事は、愛知ブランドの創設に尽力し、現在もPRをされています。」愛知ブランドの認定基準は何でしょうか。愛知ブランド企業に対し、県はどのような施策で支援していきたいですね。

「従来は、認定企業の発掘に力を注いできましたが、現在は「愛知ブランド」認知度の向上やイメージ向上を図る取組に軸足をシフトしています。例えば、特徴ある企業を見つけやすいウェブページのリニューアルやパンフレット、書籍、各種展示会でのPRのほか、私自身も東京で開催する企業誘致セミナーにおいて毎年情報発信に努めています。また、全国の大学や高校にブランド企業の特徴をPRし、各企業の広域的な人材確保に貢献しています。」

「知事は、愛知ブランドの創設に尽力し、現在もPRをされています。」愛知ブランドの認定基準は何でしょうか。愛知ブランド企業に対し、県はどのような施策で支援していきたいですね。



モリコロパークの愛称で親しまれる愛・地球博記念公園

「知事は、愛知ブランドの創設に尽力し、現在もPRをされています。」愛知ブランドの認定基準は何でしょうか。愛知ブランド企業に対し、県はどのような施策で支援していきたいですね。